

2014年3月7日  
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 谷本 寿男

パキスタン国タール石炭火力発電所建設事業  
(協力準備調査(有償))  
スコーピング案に対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・日時: 2014年2月10日(月) 14:05 ~ 17:10
- ・場所: JICA 本部 (会議室: 1階 111会議室)
- ・ワーキンググループ委員: 岡山委員、谷本委員、原嶋委員、石田委員(石田委員はメール審議にて参加)
- ・議題: パキスタン国タール石炭火力発電所建設事業協力準備調査に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料: パキスタン国タール石炭火力発電所建設事業協力準備調査スコーピング案  
事前配布資料
- ・適用ガイドライン: 国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第45回委員会)

- ・日時: 2014年3月7日(金) 14:31 ~ 17:20
- ・場所: JICA 本部(会議室: 1階 113会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体事項・代替案**

1. 他ドナーと協調し、電源開発 MP 作成の必要性をパ国へ提言すること。
2. 発電に用いてきた原料資源の経緯、ならびに今後のパ国での炭田開発に関して、ある程度の精度を備えた中長期的な見通しについての説明を DFR に加えること。
3. 代替案の検討に当たっては、以下の内容を考慮すること。
  - 1) 候補サイトの選定プロセスと判断根拠を DFR に記載すること。
  - 2) タール炭田山元発電について、他のサイトと同様に発電に使用する石炭を輸入炭 80%、タール炭 20%とした燃料及び発電技術を統一したシナリオを DFR に記載すること。
  - 3) 候補地の総合比較に当たっては、建設費と維持費を分けて明確に DFR に記載すること。
  - 4) 冷却方式及び冷却による環境影響を DFR に記載すること。特に、冷却に伴う漁業等への影響を調査し、これを評価結果として DFR に記載すること。

### **スコアリングマトリックス**

4. 環境面では、貴重種の評価を見直し、その結果を DFR に記載すること。

### **環境社会配慮**

5. タール炭田開発(ブロック II)事業により直接的かつ間接的に環境・社会に与える影響を事業実施者から確認し、その結果を DFR に記載すること。なお、内容が不足していると思われる場合は事業実施者への緩和策の改善について申し入れること。
6. タール炭田採掘現場(ブロック II)から生じる地下水の排出処理先を再確認し、その結果を DFR に記載すること。
7. 石炭輸送時ならびに貯炭場での石炭の自然発火のリスクおよびその対応を DFR に記載すること。
8. 汚染全般について供用時の影響を、輸入炭の単味燃焼時とタール炭との混焼時とで 2 段階に分けて DFR に記載すること。
9. 既存のラクラ発電所における石炭灰の処理フローと処分方法の実態ならびに本事業において想定される石炭灰の処理フローと処分方法を DFR に記載すること。
10. ラクラ周辺での文化遺産について調査し、その結果を DFR に記載すること。

### **ステークホルダー協議・情報公開**

11. ステークホルダー協議、住民説明会の日程およびそれらの詳細を DFR に記載すること。

## その他

12. 本発電所の運転開始後の維持管理に関しては、技術面に加えて財務面からも十分留意する必要性を DFR に記載すること。

以 上